

境界地域研究ネットワーク JAPAN

Japan International Border Studies Network



一周年記念シンポジウム

2013.1/22 火

13:30-16:00

全国町村会館
2Fホール

東京都千代田区永田町 1-11-35

<http://www.zgk.or.jp/kaikan/index.html>

日本の国境課題と機会

2012年は、日本をとりまく領土・国境問題が激震に見まれた二年となりました。メディアや出版では歴史的経緯の紹介、資源争いや戦略をめぐる分析、そして日本の政府や外交への批判といった上段にかまえた論調ばかりが横行しており、国境・境界地域の視座や利益を十分に咀嚼した議論はなされていないように思います。2011年11月に、与那国、対馬、根室、小笠原など境界自治体と各地の研究機関のイニシアティブで結成された境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) は、この年、稚内・サハリンや福岡・釜山での国境を越えるセミナーやシンポジウムの開催など、これら国境地域の声を内外の方々に伝える使命をもって活動をつけています。ネットワーク結成一周年を記念し、日本が抱える国境・領土問題の本質はどこにあるのか、私たちが国民はこれにどのように向き合っていくべきかを現場の声を結ぶかたちで発信すべく、シンポジウムを開催いたします。

13:30 受付開始

14:00 開会あいさつ 外間守吉 (与那国町長・JIBSN代表幹事)

14:10~14:30

報告「国境地域の現場から考える」

岩下明裕

(北海道大学スラブ研究センター教授・JIBSN副代表幹事)

14:30~16:00

ラウンドテーブル「国境地域:危機と岐路」(進行役:岩下明裕)

基調報告「国境離島振興がなぜ必要なのか」財部能成 (対馬市長)

「境界自治体の連携に向けて」古川浩司 (中京大学教授・JIBSN事業部会長)

「国境地域の声を聴いて」若宮啓文 (朝日新聞主筆: コメンテーター)

*報告、コメントに引き続き、境界自治体からの各参加者を交えた自由討論が行われます。

16:00 総括と閉会あいさつ

主催 境界地域研究ネットワーク JAPAN

共催 北海道大学グローバルCOEプログラム「境界地域の拠点形成」
北海道大学スラブ研究センター

後援 朝日新聞社

*本シンポジウムは笹川平和財団助成プロジェクト「境界地域研究ネットワーク JAPAN の設立」の一環として実施されます。

お問い合わせ
札幌市北区北9条西7丁目
北海道大学スラブ研究センター内 JIBSN 事務局
Tel: 011-706-2380 Fax: 011-706-4952
E-mail: jibsn@borderstudies.jp



定員100名

下記ホームページからお申し込みください

<http://src-hokudai-ac.jp/jibsn/>